

フィンテック グローバル株式会社

<http://www.fgi.co.jp/>

FGI

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

フィンテック グローバル株式会社

本社 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28
虎ノ門タワーズオフィス 19F
Tel. 03-5733-2121 (代表)
Fax.03-5733-2124

証券コード：8789

第 15 期
事業報告書
2008.10.1~2009.9.30

株主の皆様へ

2009年9月期は、期初に掲げた3つの課題「リスクアセットの処理」「財務の強化(資金繰り等)」「収益力の回復」への取り組みを着実に実践いたしました。

「リスクアセットの処理」につきましては、通期での当期純損失に至る主因となったものの、大幅な引当処理を断行し、当該課題は終結したと考えております。また「財務の強化」においては、2010年2月の新株予約権付社債の任意償還にむけての買入消却の実施や特別目的会社の持分譲渡による非連結化で、有利子負債を大幅に圧縮し、バランスシートを改善しています。

最大の課題である「収益力の回復」については、2009年9月期下半期にはコア事業である投資銀行事業で財務アドバイザー業務や、企業再生のためのスポンサー契約をもとにしたファイナンスアレンジを実行しました。前期からさまざまな試行錯誤を重ねるなか、再成長へのキーワードは当社グループ最大のコア・コンピタンスである“ストラクチャードファイナンスを駆使した案件創出能力と資金拠出者のアレンジメント”であると改めて確信しています。高いニーズがあるフィンテックならではの“ファイナンスのアレンジメント”をさらに高度化し、新たな挑戦を行ってまいります。

“新生フィンテック”として、グループ全社、全役職員がベクトルを一つに取り組みを進めています。株主の皆様には引き続きご支援ご協力のほど、お願い申し上げます。

2009年 12月
代表取締役社長

玉井 信光

コア・コンピタンスを

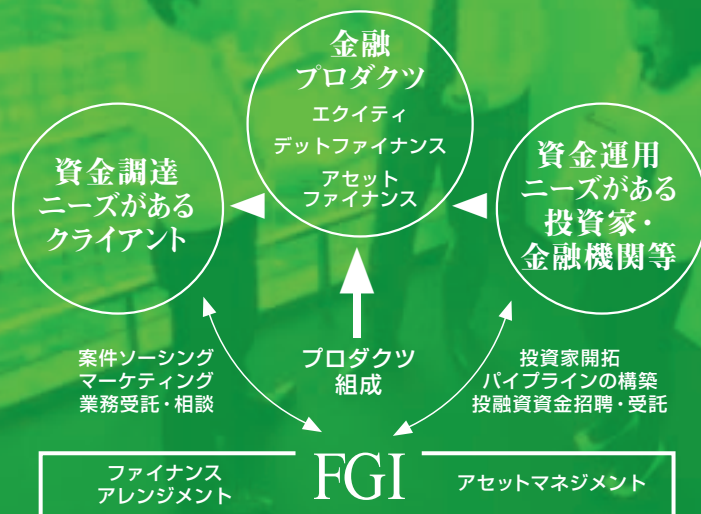
FGI

The Firm of Innovative Financing

FinTechという社名は、FinanceとTechnologyからの造語です。

今後もこの名前に恥じない先進的な「金融技術」を駆使した、より革新的な金融プロダクツを組成(製造)し続け、クライアントの皆様のご信頼に応えるよう努めてまいります。

フィンテックの事業



資金調達をしたいクライアント、資金運用をしたいクライアント
をつなぐ金融プロダクツを生み出してまいります。

最大化し、再成長へ邁進します。

3つの課題克服に向けた取り組みを实践

1. リスクアセットの処理

2. 財務の強化 (資金繰り等)

3. 収益力の回復

2009年9月期

実績数値 (連結)

売上高 **10,385** 百万円

経常損失 **21,197** 百万円

当期純損失 **12,091** 百万円

Point 1 大幅な引当を断行し、 リスクアセット処理を終結

引当処理は上半期でピークアウト

- 評価損、売却損計上ならびに営業貸付金への大幅な貸倒引当処理 (通期での金額)

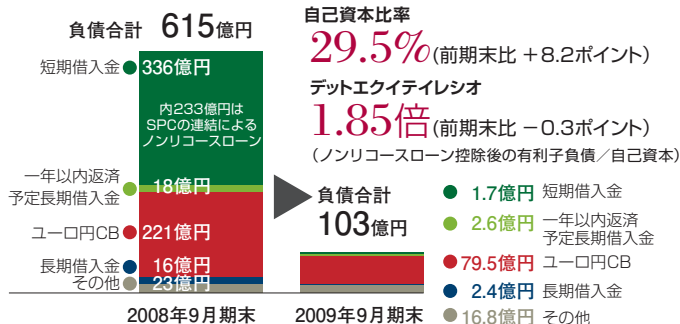
売却損及び評価損: 8,938 百万円

引当金繰入及び貸倒損失: 9,410 百万円

引当金計上済みの債権についても、引き続き回収に注力

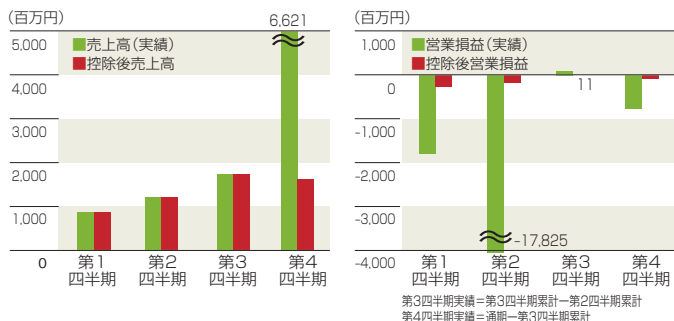
Point 2 有利子負債を圧縮、 バランスシートを改善

- 特別目的会社の非連結化で、ノンリコースローンを233億円減少
- 銀行借入を130億円減少 (上記ノンリコースローンを除く)
- ユーロ円CBの買入消却によりCBを142億円減少



Point 3 投資銀行事業のアレンジャー業務を 中心に収益力が改善傾向へ

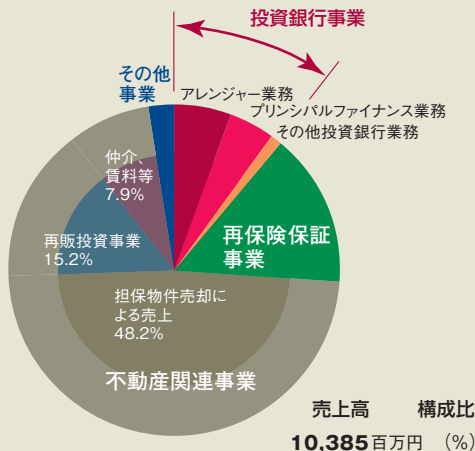
評価損、引当金損失ならびに担保物件の売却による売上及び費用計上を控除した場合の当社の収益力



● 投資銀行事業の売上推移 (百万円)	2008年9月期		2009年9月期	
	上半期	下半期	上半期	下半期
アレンジャー	1,934	256	185	417
プリンシパルファイナンス	1,263	785	331	117
その他	34	314	95	29
投資銀行事業売上合計	3,231	1,356	612	564

セグメント情報

2009年9月期 セグメント別売上高



セグメント	売上高	構成比
投資銀行事業	1,177	11.3
● アレンジャー業務	603	5.8
● プリンシパルファイナンス業務	448	4.3
● その他投資銀行業務	124	1.2
再保険保証事業	1,556	15.0
● 再販投資事業	15.2%	
● 仲介、賃料等	7.9%	
● 担保物件売却による売上	48.2%	
不動産関連事業	7,402	71.3
その他事業	249	2.4
(公共財関連事業)		

投資銀行事業 売上高 1,177 百万円

アレンジャー業務

- フィンテックグローバル(当社)
- フィンテックキャピタルリスクソリューションズ

プリンシパルファイナンス業務

- フィンテックグローバル(当社)
- FINTECH GIMV FUND, L.P.

その他投資銀行業務

- フィンテックグローバル(当社)
- フィンテックグローバル証券
- フィンテックグローバルキャピタル※

再保険保証事業 売上高 1,556 百万円

保証供与

- Stellar Capital AG
- フィンテックグローバル(当社)

再保険引受

- Crane Reinsurance Limited

滞納家賃保証

- イントラスト

不動産関連事業 売上高 7,402 百万円

不動産開発・売買・賃貸・仲介業務等

- フィンテックグローバル(当社)
- ベルス
- フィンテックアセットマネジメント※
- フィンテックリアルティ※
- フィンテックグローバル鑑定※
- 新栄不動産開発

その他事業(公共財関連事業) 売上高 249 百万円

公会計用ソフト開発販売・コンサルティング

- パブリック・マネジメント・コンサルティング

公共ファイナンス等に関する調査・研究コンサルティング

- 公共ファイナンス研究所※

公共財に関するアセットマネジメント事業

- 公共財アセットマネジメント※

※非連結子会社

2009年9月期 不動産関連事業収支について

▼以下の一時的な要因により、不動産関連事業の売上高は7,402百万円(前期比226.3%増)となりました。

- 投資銀行事業において取得した担保物件の売却により、5,006百万円の売上を計上
- マンションの再販投資により、1,581百万円の売上を計上

▼上記担保物件の売却により、売上原価に6,367百万円を計上。結果、不動産関連事業は1,144百万円の営業損失を計上しています。

投資銀行事業

売上高1,177百万円(前期比 74.3%減)

アレンジャー業務

売上高603百万円(前期比 72.5%減)

ファイナンス案件を実行するための「仕組み」の策定、投資家等プロジェクト参加者の招聘及び意見調整、法的・会計的・税務的な視点からの検証等を行い、案件を組成します。当期は、リファイナンスのアレンジメントや財務アドバイザー業務に加え、再生事案のスポンサー契約に基づくファイナンスアレンジを行っています。

プリンシパルファイナンス業務

売上高448百万円(前期比 78.1%減)

期中は営業貸付金の回収を進める一方、投融資の新規実行を抑制したため、金利収入は減少しました。

その他投資銀行業務

売上高124百万円(前期比 64.1%減)

当業務は主にアドミニストレーション業務と、フィンテックグローバル証券(株)が、特定投資家層に対するサービスとして、外国籍の私募ファンド等や国内証券化案件に係る私募の取扱いによる媒介手数料の売上を計上しています。

再保険保証事業

売上高1,556百万円(前期比 638.3%増)

主に(1)再保険業務、(2)滞納家賃保証業務、(3)信用補完保証業務の3業務を行っております。

▼再保険収入が引き続き伸長

子会社のCrane Reinsurance Limited はロンドン証券取引所上場の再保険会社Hardy Underwriting Bermuda Limitedとの提携により、順調に保険料収入が増加しています。

▼(株)イントラストの業務が急速に拡大

滞納家賃保証業務の(株)イントラストは、賃貸住宅管理会社との新規提携が増加し、また既存提携先からの契約数も順調に伸長しています。当期の新規保証契約数は32,606件(前期比260%増)と大幅に増加しています。

不動産関連事業

売上高7,402百万円(前期比 226.3%増)

マンション再販投資事業の収益、投資銀行事業にて担保物として取得した物件の賃料・売却による収益や(株)ベルスの収益を計上しています。

▼(株)ベルスの事業が堅調に推移

第1四半期に連結子会社とした(株)ベルスは職域福利厚生トータル・サービス、不動産売買・賃貸管理の紹介・斡旋、大手外資系会社従業員に対する賃貸住宅サービス事業を展開しています。期中は比較的底堅い分譲マンション需要を背景に、不動産紹介サービス事業等により業績は堅調に推移しています。

その他事業(公共財関連事業)

売上高249百万円

地方公共団体の公会計用ソフトウェアの開発・販売、公会計コンサルティングからシステム構築・業務運用支援を行う(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングの収益を計上しています。

▼公共財関連事業に向けた体制強化

2009年6月には(株)公共ファイナンス研究所及び(株)公共財アセットマネジメントを設立しました。今後は、地方自治体に対し、資産流動化やPPP(公民連携)などの手法の提案及び公共ファイナンス関連の情報提供、さらには資産流動化ファイナンスアレンジメント及び投資ビークルに対するアセットマネジメントを行う公共財関連事業を本格展開してまいります。

2010^年基本施策

9月期

ストラクチャードファイナンスを駆使した案件創出能力と、資金拠出者のアレンジメントを武器に、顧客・投資家ニーズをさらに取り込んだ新しい取り組みを推進します。

投資家の開拓、投資資金受託に向けた取り組み

1. 投資家の開拓とファンド創設

既存の営業ネットワークを拡大し、投資家の開拓を推進、当社組成の投資案件に資金投下していくファンド創設を目指します。

2. アセットマネジメント機能、証券機能強化

新たな取り組みに必要となるアセットマネジメント機能、証券機能の強化に向け、提携、買収等による機能補完も視野に、体制を整備します。

顧客ニーズを最重視して、案件獲得体制を強化

1. ファイナンス案件獲得体制強化

営業力の強化および案件加工能力向上を企図するとともに、企業再生投資を中心とした良質な案件の獲得を目指します。

また、メザンローンのアレンジメント、特に金融危機後に現出してきている、膠着状態の開発型案件に対するリファイナンスアレンジメントなどの受託をしております。

2. 再生ビジネスの推進

経営不振の事業会社、REITへ金融ノウハウを提供し、場合によっては投資家資金をアレンジすることにより、再生をサポートいたします。

3. 証券ビジネスの推進

第三者割当増資や新株予約権等のファイナンスアレンジを行っております。

4. M&A推進体制の確立

FGIグループのネットワークを生かし、セルサイドのアドバイザーとして売却案件を中心に開拓し、依頼に基づいて買収案件も取扱い、M&Aや業務提携の取引の構築、クロージングまで行っております。

フィンテックのファイナンスアレンジメント

コア・コンピタンスを再確認し、再発進へ

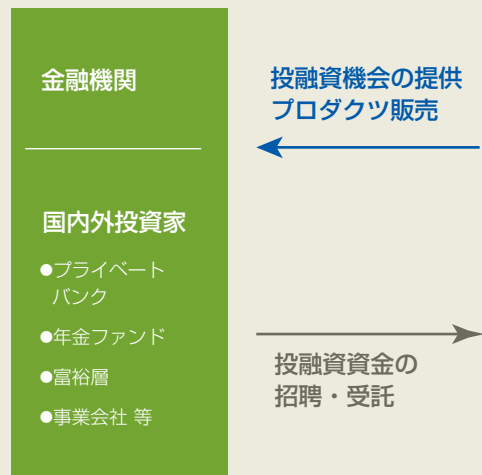
- 2009年9月期下半期に企業再生事案について30億円以上の資金を複数の投資家から導引するなど、コア事業である投資銀行事業復活への道筋を歩み始めています。
- 当社グループのコア・コンピタンスは、ストラクチャードファイナンスを駆使した“案件創出能力”と“資金拠出者のアレンジメント”です。不透明な経済環境下、効率的な資金調達・運用を可能とする本来の投資銀行業務、特にフィンテックのデットを中心としたファイナンスのアレンジメントには、資金調達を必要とする企業や

プロジェクト、そして資金を安定的に運用したい国内外金融機関・投資家の双方から、高いニーズがあります。

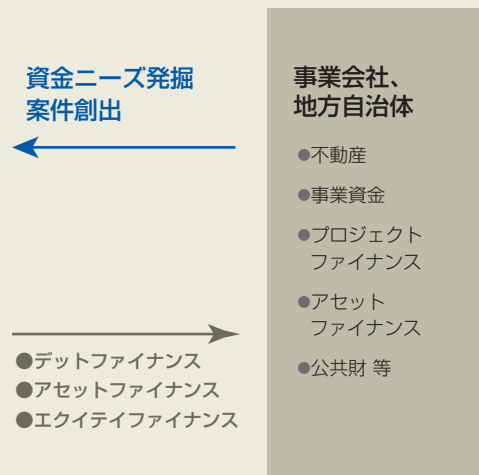
2010年9月期においては、資金調達ニーズのある顧客に対し金融機関からのデット資金の調達をアレンジするという従来からの機能に加え、国内外の投資家から直接的に、またはファンドを介して顧客にデット・エクイティ資金を導引していくアレンジメント機能を充実、強化することにより、アレンジ案件受託を増加させ、収益力回復を図ってまいります。

フィンテックならではのアレンジメント力を武器に 資金の運用ニーズと調達ニーズ双方に応え、顧客層を拡大します。

資金運用ニーズ のある顧客



資金調達ニーズ のある顧客



新たな事業展開に向けた基盤づくり

証券・アセットマネジメント機能の強化

- 左図のように招聘、受託した投資家資金を直接、あるいはファンドを介して当社が組成した案件へ導引していく計画です。そのために案件の組成(当社)のみならず、投資家開拓や組成商品の媒介(フィンテックグローバル証券)、ファンドへの投資助言と投資運用業(フィンテックアセットマネジメント)の機能を外部との提携やM&Aも視野に一層拡充していく予定です。

公共財分野など、より多様な分野で案件を組成

- 不動産分野に加え、事業再生ニーズに対応したアレンジメントを増やしていますが、今後さらに多様な分野で主力の商品(組成案件)を創ることは重要テーマです。その一環として、地方自治体の財政健全化ニーズに対応し、自治体資産を投資ビークルへ譲渡するファイナンスアレンジメントや投資ビークルに移された資産のアセットマネジメントについても、今後の展開を企図しております。

**“本来の投資銀行”機能の強化に経営資源を集中し、
経営体制、グループ会社を再整備します。**

新生 FGI グループ

投資銀行
事業

フィンテック
グローバル

フィンテック
グローバル証券

フィンテック
アセット
マネジメント

イントラスト

Crane

再保険保証
事業

その他子会社

公共財
関連子会社

パブリック・マネジメント・コンサルティングなどの連結子会社とともに公共財事業への取り組みを強化しています。今後も多様な分野でのニーズに即してグループ機能を拡充します。

他社との提携も視野にいれながら、商品を投資家に媒介する証券機能、資産運用・運営・管理を行うアセットマネジメント機能を充実します。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位 千円)

科目	当期末	前期末
	(2009年9月30日現在)	(2008年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	14,463,033	78,155,349
現金及び預金	5,811,512	9,600,189
売掛金	186,152	211,058
1▶ 有価証券	431,098	4,119,244
営業投資有価証券	6,059,149	5,828,400
2▶ たな卸資産	911,167	36,344,528
繰延税金資産	1,065	823,502
3▶ 営業貸付金	11,336,718	19,361,400
未収入金	—	7,545,342
その他	1,960,718	2,151,468
貸倒引当金	△ 12,234,548	△ 7,829,785
固定資産	1,303,031	865,843
有形固定資産	196,647	275,997
無形固定資産	629,990	241,157
投資その他の資産	476,393	348,688
資産合計	15,766,064	79,021,192

1▶ 有価証券

価格変動リスクの高い有価証券の投資ポジションを解消したことにより、前期末比3,688百万円減少しています。

2▶ たな卸資産、短期借入金

連結の範囲に含まれていた特別目的会社が非連結となり、当該特別目的会社のたな卸資産(販売用不動産)、短期借入金が大幅に減少しました。

3▶ 営業貸付金

回収及び新規融資抑制により、前期末より8,024百万円の減少となりました。

(単位 千円)

科目	当期末	前期末
	(2009年9月30日現在)	(2008年9月30日現在)
(負債の部)		
流動負債	1,682,247	37,399,383
2・4▶ 短期借入金	175,000	33,613,647
4▶ 一年以内返済予定長期借入金	260,000	1,818,300
未払金	244,418	720,769
その他	1,002,829	1,246,666
固定負債	8,635,980	24,195,549
5▶ 新株予約権付社債	7,950,000	22,170,000
4▶ 長期借入金	245,000	1,612,600
その他	440,980	412,949
負債合計	10,318,228	61,594,933
(純資産の部)		
株主資本	4,762,304	16,855,245
資本金	10,764,317	10,764,317
資本剰余金	10,351,900	10,351,900
利益剰余金	△ 16,353,913	△ 4,260,972
評価・換算差額等	△ 108,944	△ 47,945
その他有価証券評価差額金	△ 1,477	△ 7,346
為替換算調整勘定	△ 107,466	△ 40,599
新株予約権	20,572	17,659
少数株主持分	773,903	601,301
純資産合計	5,447,836	17,426,259
負債・純資産合計	15,766,064	79,021,192

4▶ 短期借入金、一年以内返済予定長期借入金、長期借入金

金融機関借入の返済及びノンリコースローンを借り入れている特別目的会社が非連結になったことにより短期借入金は前期末比33,438百万円減少、一年以内返済予定長期借入金は1,558百万円減少、長期借入金は1,367百万円の減少となりました。

5▶ 新株予約権付社債

当期に14,220百万円(額面金額ベース)の買入消却を行っております。

6▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

当期の営業活動によるキャッシュ・フローは、主に税金等調整前当期純損失により11,417百万円、新株予約権付社債償還益により9,874百万円減少したものの、貸倒引当金の増加により4,404百万円、営業投資有価証券売却損により8,375百万円、たな卸資産の減少により5,275百万円、営業貸付金の減少により11,024百万円増加しました。

7▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当期の財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少により10,138百万円、長期借入金の返済による支出により5,385百万円、社債の償還による支出により4,575百万円減少しました。

連結損益計算書

(単位 千円)

科目	当期	前期
	(2008年10月1日から 2009年9月30日まで)	(2007年10月1日から 2008年9月30日まで)
売上高	10,385,341	14,165,298
売上原価	17,711,538	5,850,602
売上総利益又は売上総損失(△)	△7,326,196	8,314,696
販売費及び一般管理費	12,994,837	16,555,000
営業損失(△)	△20,321,034	△8,240,303
営業外収益	61,381	195,757
営業外費用	937,653	1,070,129
経常損失(△)	△21,197,306	△9,114,676
特別利益	9,955,563	4,761,756
特別損失	175,718	1,122,020
匿名組合損益分配前 税金等調整前当期純損失(△)	△11,417,462	△5,474,940
匿名組合損益分配額	-	65,426
税金等調整前当期純損失(△)	△11,417,462	△5,540,367
法人税、住民税及び事業税	10,769	1,668,205
法人税等還付税額	△15,501	-
法人税等調整額	844,491	△998,585
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△166,146	950,707
当期純損失(△)	△12,091,075	△7,160,694

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 千円)

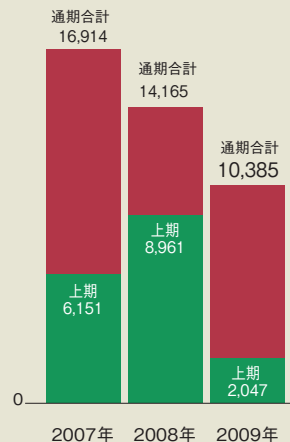
科目	当期	前期
	(2008年10月1日から 2009年9月30日まで)	(2007年10月1日から 2008年9月30日まで)
6▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー	8,333,833	13,155,209
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,687,744	△12,099,920
7▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,674,600	△6,743,715
現金及び現金同等物に係る換算差額	△33,853	△13,485
現金及び現金同等物の減少額	△3,686,875	△5,701,911
現金及び現金同等物の期首残高	9,500,189	15,163,735
新規連結に伴う現金及び現金同等物の 増加額	-	39,510
新規連結に伴う現金及び現金同等物の 減少額	△1,801	△1,145
現金及び現金同等物の期末残高	5,811,512	9,500,189

● 連結財務ハイライト

(各年度10月1日～9月30日)

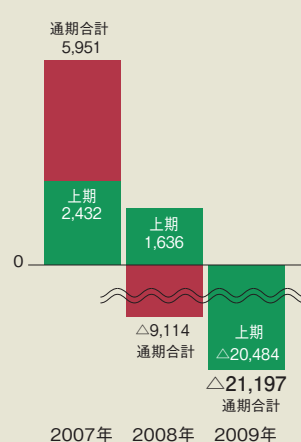
売上高

(単位 百万円)



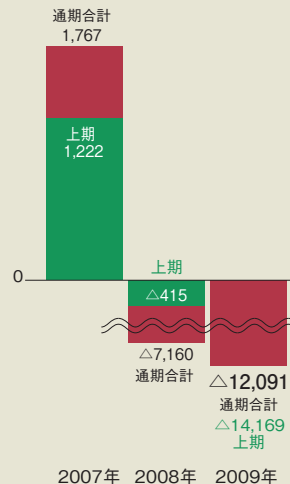
経常利益(損失)

(単位 百万円)



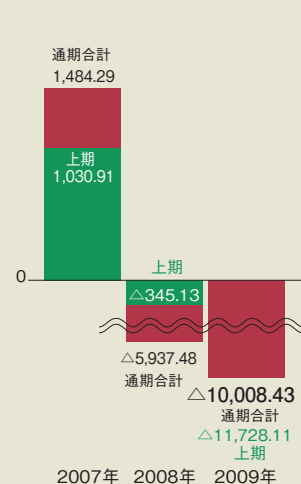
当期純利益(損失)

(単位 百万円)



一株当たり当期純利益(損失)

(単位 円)



会社概要

(2009年9月30日現在)

フィンテック グローバル株式会社

設立	1994年12月7日		
資本金	107億6,431万7,950円		
従業員数	連結117名、単体50名(臨時従業員、派遣社員を除く)		
役員	(2009年12月18日現在)		
代表取締役社長	玉井 信光	常勤監査役	二宮 幸一
取締役会長	ロバート・ハースト	監査役	大山 亨
取締役副社長	野瀬 泰伸	監査役	長島 弥吉
取締役	大橋 光郎		
取締役	三橋 透		
取締役	鷺本 晴吾		

経営陣 (2009年12月18日現在)

取締役



玉井 信光 代表取締役社長

オリックス(株)にて航空機ファイナンスをはじめとするストラクチャードファイナンス手法を用いた金融商品の企画販売業務を担当。その後、保険関連事業の策定・展開、リスクファイナンスや保険をベースとしたプロジェクトファイナンスのアレンジ等を手掛ける。新しいインベストメントバンキング形態を目指し、1994年当社を設立。



ロバート・ハースト 取締役会長

バンカーストラスト、International Finance Corporation(米国)、Citibank NA(日本)にて、デリバティブ、ストラクチャードファイナンスのプロフェッショナルとして活躍。AIG Financial Products Corp.においては、取締役として日本及びアジアにおけるビジネスを統括。Bank AIG (Securities)駐日代表等を経て、2004年6月フィンテックパートナーズ(株)(現フィンテックグローバル証券(株))入社。同社代表取締役会長等を経て、2007年12月当社取締役会長に就任。



野瀬 泰伸 取締役副社長

大和証券(株)、ドイツ銀行、スイスユニオン銀行等においてストラクチャードファイナンスに携わる。リーマン・ブラザーズ証券会社東京支店においては、日本人責任者として日本企業向け証券化ビジネスの立ち上げ、各種証券化商品の組成部隊を構築。2005年1月同社マネージング・ディレクター兼グローバルストラクチャードファイナンス日本統括責任者に就任。2005年12月当社取締役、2008年4月当社取締役副社長に就任。



大橋 光郎 取締役 執行役員 法務コンプライアンス部長

安田信託銀行(株)(現 みずほ信託銀行(株))にてニューヨーク支店、海外審査部等を経て、1997年7月同行豪州現地法人社長に就任。2000年4月から同行審査部に転勤、審査部専任部長としてストラクチャードファイナンスの審査を所管。不動産鑑定士。2005年12月当社取締役に就任。



三橋 透 取締役 執行役員 投資銀行本部長

(株)三和銀行(現 (株)三菱東京UFJ銀行)においてニューヨーク支店、東京法人営業第四部で法人営業を担当。その後、新宿新都心法人営業第一部にて、大企業を担当する部門を統括。2007年2月、当社入社。同年3月に投資銀行本部ストラクチャードファイナンス営業第二部長、2009年4月、当社執行役員 投資銀行本部副本部長。2009年12月当社取締役に就任。



鷺本 晴吾 取締役 執行役員 財務部長兼事業統括部長

(株)富士銀行(現 (株)みずほ銀行)にて支店長等を歴任。その後、同行審査部、資産監査部において与信審査及び資産監査業務に従事。2004年8月丸善(株)入社、その後、執行役員財務統括センター長に就任。2007年9月より当社管理本部財務部長として財務・経理業務を所管。2009年4月当社執行役員 財務部長、2009年12月当社取締役に就任。

執行役員



森上 克典 執行役員 投資銀行本部副本部長

オリックス(株)にて国内企業向けリース営業及び不動産ファイナンス業務に従事し、博覧会遊戯施設のストラクチャードファイナンスを手掛ける。その後独立、国内中小企業向けに金融商品を用いた財務・税務のコンサルティングに従事。2006年10月に当社事業統括部長として入社。経営企画部長、ストラクチャードファイナンス営業第三部長、投資銀行本部副本部長を経て、2009年4月当社執行役員投資銀行本部副本部長に就任。



廖 維舟 執行役員 投資銀行本部副本部長

(株)三和銀行(現 (株)三菱東京UFJ銀行)国際業務部、ニューヨーク支店を経て、ロンドン支店にて数々の海外大手企業向けシンジケーションローン案件、MBO案件を手掛ける。2002年より東京ストラクチャードファイナンス部に航空機ファイナンス等の与信管理を担当。2004年12月、当社入社。2009年4月当社執行役員事業統括部長、2009年12月当社執行役員投資銀行本部副本部長に就任。

主なグループ子会社 (2009年9月30日現在)

フィンテック グローバル証券株式会社

設立	2004年6月
資本金	4億6,500万円
事業内容	ファンドの私募の取り扱い (第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業)

フィンテックアセットマネジメント株式会社

設立	2005年12月
資本金	1億円
事業内容	アセットマネジメント事業(投資助言・代理業、投資運用業)

フィンテック グローバル キャピタル合同会社

設立	2006年9月
事業内容	ベンチャーキャピタルファンドに対するアドバイザー業務

フィンテック キャピタル リスク ソリューションズ株式会社

設立	2001年4月
資本金	5,000万円
事業内容	信用補充案件の組成、アレンジメント

株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング

業務開始日	2008年7月
資本金	1億152万円
事業内容	公会計用ソフトウェアの開発・販売・コンサルティング

株式会社公共ファイナンス研究所

設立	2009年6月
資本金	5,000万円
事業内容	公共ファイナンス等に関する調査・研究、 コンサルティング、出版・情報サービス

株式会社イントラスト

設立	2006年3月
資本金	2億円
事業内容	滞納家賃保証事業

Stellar Capital AG

設立	2006年3月
資本金	100億871万円
事業内容	信用補充供与、保証引受

Crane Reinsurance Limited

設立	2006年3月
資本金	15億円
事業内容	再保険引受

株式会社ベルス

業務開始日	2007年12月
資本金	667万円
事業内容	職域福利厚生サービス、 不動産売買・賃貸・管理の紹介・斡旋

フィンテック グローバル鑑定株式会社

業務開始日	2009年4月
資本金	300万円
事業内容	不動産の鑑定評価

株式会社新栄不動産開発

業務開始日	2009年10月
資本金	1,000万円
事業内容	不動産売買、不動産開発代行

株式の状況

(2009年9月30日現在)

発行可能株式総数	3,084,000 株
発行済株式の総数	1,208,135 株
株主数	12,831 名

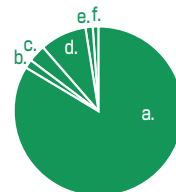
●大株主(上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
1. 玉井信光	267,755	22.16
2. 藤井優子	52,014	4.31
3. コービーエスエージーシンガポール	36,108	2.99
4. 青島正章	35,325	2.92
5. 財務大臣	20,001	1.66
6. 鈴木章久	19,830	1.64
7. エスアイエックス エスアイエス エルティーディー	15,780	1.31
8. 平野修	13,299	1.10
9. ケービーシー セキュリティーズ エヌファイ クワイアーツ アカウント ノン トリーディー	12,752	1.06
10. 田村直丈	12,200	1.01

●株式分布状況

所有者別

a. 個人・その他	1,012,068株 (83.77%)
b. 政府及び地方公共団体	20,001株 (1.65%)
c. その他国内法人	39,237株 (3.25%)
d. 外国人	107,892株 (8.93%)
e. 金融商品取引業者	15,196株 (1.26%)
f. 金融機関	13,741株 (1.14%)



株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
定時株主総会	12月
基準日	9月30日
中間配当基準日	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所マザーズ市場(証券コード：8789)
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL	http://www.fgi.co.jp/japanese/ir/download.html#denshi
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土日祝日を除く)